

## 風が吹く前に 使徒 1:3-11

2026. 5. 3、丘の上、NO. 771  
春日部福音自由教会 山田豊

西方キリスト教会の暦では、今月 17 日が主の昇天日、24 日がペンテコステ、聖霊降臨日です。聖霊が弟子たちに臨む前、その備えの意味で、本日の説教題を「風が吹く前に」といたしました。

聖霊は、三位一体なる神様の一つの位格です。聖霊も神様ご自身であるのですが、なかなかわかりにくいことであると思います。聖霊に満たされることは大切であることはわかるが、聖霊を感じられない、聖霊がともにいてくださることがぴんと来ない、という向きもあることでしょう。

そんな私たちのために、聖書の中で聖霊はいくつかの象徴的なものに例えられています。それは、風であり、火であり、水です。また、もう一人の助け主(ヨハネ 14:16)、鳩(マタイ 3:16)、証印(エペソ 1:13-14)にもたとえられています。本日は、最初の三つの象徴を取り上げ、風が吹くとき、すなわち聖霊が私たちに臨む時の備えとしたいと願っております。

聖霊は風に例えられています。ヨハネ 3 章に記されているイエスとニコデモとの対話の中で用いられています。特にヨハネ 3:8 にある、「風は思いのままに吹くが、どこから来てどこへ行くのか分からない」という言葉は印象的です。ヘブル語の「ルアッハ」と、ここで使われているギリシャ語の「プニューマ」は、ともに「息、風、霊」とも訳される言葉です。風が大自然の中で自由に吹くように、私たちも神の導きに任せて歩みたいのです。

聖霊は火に例えられています(使徒 2:3)。しかしここには「炎のような舌が分かれて現れて」とありますから、実際には舌に例えられているといっいでしょう。火も舌も色としては赤なので、聖霊を表す色は赤ということになっています。舌は言葉を意味します。バベルの塔の事件(創世記 11 章)では、神は人の言葉を混乱させられました。しかし聖霊は、多くの言語で福音を語らせ、キリストにあって一つにしてくださるお働きをされるのです。また風が吹くと炎が立ち上がるように、聖霊は私たちの弱い信仰を回復させてくださるのです。

そして聖霊は水に例えられています(ヨハネ 7:38-39)。水は渴きをいやします。それはイエス様ご自身です(ヨハネ 4:13-14)。私たちの最も深いところの渴きをいやし、内側から湧き上がって私たちを生かすのです。聖霊による神との交わりは、この生ける水を飲むことにほかなりません。

静まりの中で、聖霊が私たちに臨む時を待ちましょう。

引用聖句

ヨハネ 14:16-17 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。

ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

マタイ 3:16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。

エペソ 1:13-14 このキリストにあつて、あなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

ヨハネ 3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

使徒 2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

ヨハネ 7:38-39 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。

ヨハネ 4:13-14 イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

創世記 11:9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。そこで【主】が全地の話しことばを混乱させ、そこから【主】が人々を地の全面に散らされたからである。